



読了から始まる、
新たな1ページ

猫町倶楽部へようこそ

藤が丘駅からゆるやかな坂を歩くこと5分。

蔦がはった建物の階段を下りていくと、「JAZZ茶房青猫」にたどり着く。重い扉をゆっくりと開くと、読書会が開かれていた。

感想を自由に語り合う 「ゆるい」読書会

本を片手に男女7人がテーブルを囲む。「主人公のいつていることはわかるけど、なんだか現実離れしている」「登場人物には行動力がある。自分は何かできていないのだろうか」と考えさせられた」などといった感想が飛び交う。誰もが真剣に耳を傾け、時に笑い声がかかる。この日の課題本は、



猫町倶楽部代表の山本多津也さんも、参加者として本について語り合う

『33年後のなんとなく、クリスタル』（田中康夫著）。1980年に文藝賞を受賞し、ベストセラーとなった『なんとなく、クリスタル』の続編だ。作品の舞台は、現代。かつて大学生だった主人公をはじめ、「豊かな」生活をしてきた若者の33年後が描かれている。

名東区を中心に活動する「猫町倶楽部」は、年間約6千人が参加する国内最大級の読書サークルだ。ルールは、「課題本の読了」と「相手の意見を否定しないこと」の2つ。「読書会と聞く」と難しく捉えがちですが、学術的なことを話さなくてもいい。これまで語り合いがケンカに発展したことは

一度もありません。「ゆるく」開催しています」と猫町倶楽部代表の山本多津也さんは微笑む。

「JAZZ茶房青猫」で開催される「文学サロン月曜会」は、月に1度。7、8人ごとのグループに分かれて、本の感想を語り合う。課題本は、夏目漱石や谷崎潤一郎などの古典や現代文学が中心。誰もが一度は聞いたことがある名著でありながら、読書会をきっかけに初めて読むことも多い。参加者からは「普段読み慣れないジャンルにチャレンジすることもあり、刺激をもらえる」と声がかかる。1冊の本をどのように捉えるかは個人の自由。仲間

は、顔を合わせて直接言葉を交わすことにみんなが飢えていたんですよね」と山本さん。

猫町倶楽部の誕生は2006年。数人で始まった小さな勉強会は、年間6千人の参加者を集める国内最大級の読書会へと成長した。当時、山本さんは独立して会社を設立。経営学について勉強を始めた頃だった。セミナーなどに足を運んでみるものの、違和感を覚えたという。「講師の話を聞くだけで終わり。聞いた人同士が意見交換をする場がないことにもつたいなさ

を感じていました。自らの意思で本を読んだ方が自分のためになり、さらに読んだ人同士で感想をいい合えば、刺激にもなる」。こうして友人と開いた勉強会が「猫町倶楽部」の原点だ。参加者急増のきっかけとなったのは会員制交流サイト（SNS）の「ミクシィ」だった。当時若者の間で急速に広まっていたSNSがビジネスに有益だと耳にした山本さん。仲間同士の情報共有手段として試験的に掲示板を立ち上げた。「まさかこんなにも参加者が集まりました」と思いもしなかった

と一番驚いたのは、他の誰でもない山本さん自身。参加を求めるメッセージが山本さんのもとに何通も届いたという。

勉強会スタートから数カ月後「文学の読書会を」という声にこたえ、「名古屋文学サロン月曜会」を始動。課題本には、夏目漱石の『こころ』や森鴎外の『高瀬舟』を選んだ。「読書会の参加者は現代文学を好む人がほとんど。誰もが知っている『王道の名著』を見直すのもおもしろいのではないかと思いました」。現在は「月曜会」の他に、

ビジネス・人文系の読書会「アウトプット勉強会」や映画の感想を語り合う「シネマテール水曜会」、アートや音楽系の本を課題図書とする「藝術部」などを開催。ジャンルは文学だけでなくとどまらない。2009年には東京で活動を開始。名古屋、東京、京都へと読書会の輪は全国に広がりをを見せている。

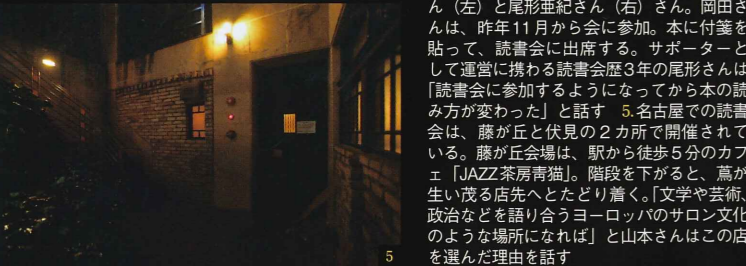
読書を通して人間力を育てる

読書会の良さはなんといっても、年齢や性別、職業を越えた友達ができること。「課題本を読む」という共通項があるため、初対面同士で話題を探さずこちなさがなく、すぐに輪に溶け込むことができるのも特徴だ。読書会をきっかけに恋愛に発展し、結婚したカップルもいるのだそう。「読書会は人間性が出ますからね。知っているだけで30組が結婚しました」と微笑む。

「何をしゃべったらいいか初めはわからなかった」と話すのは、3年前から参加する尾形亜紀さん。「本を語り合うことは刺激になる。『どんなことをみんなが話し合おう』と考えながら、本を読み進めています」と



1,2,3.自分の考えを相手に伝え人の意見に耳を傾けることは、ビジネスシーンでも有益。読書会は、わかりやすく相手に伝えるスキルを鍛えるのに効果的だ。課題本に合わせてドレスコードが決められているなど読書以外の楽しみも。取材時には「なんとなく、クリスタル」に合わせて、80年代ファッションを身につけた参加者が目立った。4.岡田陽一さん（左）と尾形亜紀さん（右）さん。岡田さんは、昨年11月から会に参加。本に付箋を貼って、読書会に出席する。サポーターとして運営に携わる読書会歴3年の尾形さんは、「読書会に参加するようになってから本の読み方が変わった」と話す。5.名古屋での読書会は、藤が丘と伏見の2カ所で開催されている。藤が丘会場は、駅から徒歩5分のカフェ「JAZZ茶房青猫」。階段を下がると、蔦が生い茂る店先へとたどり着く。「文学や芸術、政治などを語り合うヨーロッパのサロン文化のような場所になれば」と山本さんはこの店を選んだ理由を話す



初の参加者も多いため、まずは自己紹介からスタート。ファシリテーター（進行役）を中心に和やかな雰囲気読書会を進む

Information 猫町倶楽部

【TEL】052-774-3150
http://www.nekomachi-club.com/

参加条件は課題本の読了のみで入会資格は不要。ウェブサイトから希望の読書会に申し込むだけ。毎回15パーセントが初参加者で、ほとんどの人が1人で参加しています